す。母金子恵華の入会から始まり、私も小一から学生書莚でスタートし今日に致る迄『書莚』と共に書学してまいりました。今後も益々のご発展を心から祈念しております。

高山林壑先生

吉岡麗江先生

お楽しみ抽選会

石島柏美先生

高橋香樹会長担当　半紙臨書課題

（８月22日締切）出品料440円

木簡（武威漢簡）第五回

1、字句＝亭隊回度

2、形式＝半紙タテ使用。右に「亭隊」、左に「回度」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。

3、概観＝前回までは、隷書の中でも波磔の顕著な八分隷の木簡を課題としてきましたが、今回は、波磔があるような、ないような古隷といわれる木簡を取り上げたいと思います。（但し、今回の木簡は、厳密に言えば古隷から八分隷への過渡期とも思われますが。）

書の世界では、「古隷」といわれる一群があり、「開通褒斜道刻石」・「三老諱字忌日記」・「石門頌」・「桶准表紀」などがあげられます。古隷とは、字義からいえば古い隷書体ということですが、「古朴」・「古拙」といった捉えかたもされています。今回の木簡は、ほぼ一定の太さで構成され、横画は稍右上がりです。

4、各字のポイント

亭　横画が全て右肩上がり。上部を思いきって左寄りに。下はゆったりと広く中の筆画を包みこむ。

隊　偏の縦画を長くし、右払いはそれに対抗させる。点の位置は下げない。

回　右回りのリズムが顕著である。「口」を書くときは、第一画と第三画を続けて一筆とし、二筆で書く。

度　「又」の左払いは左下に伸ばし、右払いは上部の筆画の重量を一手に受けてがっしりと安定させる。

一字書課題

（８月22日締切）

唱

(1)書体自由

(2)半紙タテ

(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる

(4)出品料　四四〇円

条幅随意参考

亭隊回度擧毋必

（二玄社）

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

条幅部漢字課題参考　（八月二十二日締切）

A

髙橋香樹会長書

景物自隨幽意得　世情渾與此心違（陳留）
景物おのずから幽意に随うて得、世情渾（すべ）てこの心と違（たが）う。

行草による作。連綿線をと思えば、数多く試みることが出来るが、右か左へと単純な連綿になると思い、数ヶ所にとどめた。墨が少し薄かったので、「**景**」と「**與**」でニジミがあり、判然としないところがあるかもしれません。「**隨**」では不必要な線が多い。省略を。墨継ぎは「**得**」と「**與**」。

B

鈴木静村先生書

字詰めを「9・5」とした。墨継ぎは**得**、**此**。みなさんはもちろん『各々流』で取り組んでほしい。**景**　〝京〟の点を省いた形。**意**　下部三点に生動を。**世情**　草書連綿。

訳…景物は自然としずかな気持ちによって得るが、世の情態はすべてこの心と反対で、くいちがうことが多い。

予告　昇試第一部漢字（九月二十二日締切）　**渓畔印沙多鶴跡　檻前題竹有僧名（李山甫）**

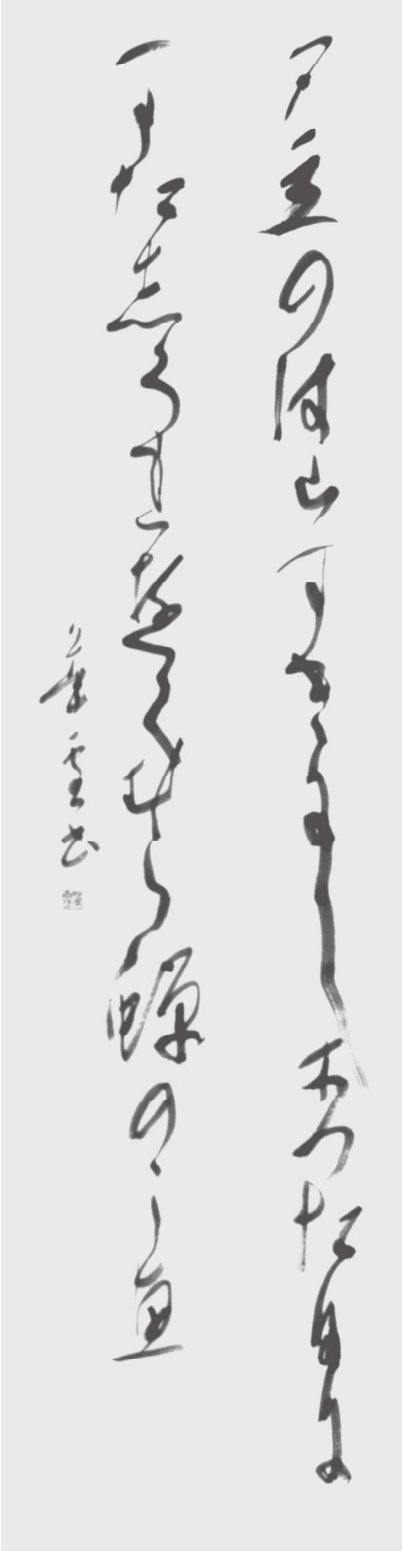
◆**注　意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を〇で囲み（１）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を〇で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条幅部かな課題参考　（八月二十二日締切）

A

平岡華雪先生書

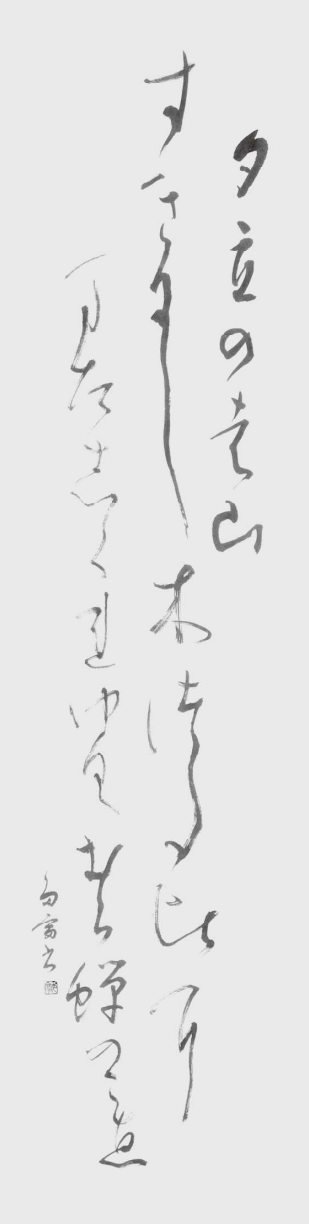
夕立のは山すぎにし木づたひにまたしぐれゆくむら蟬のこゑ（下河辺長流）
夕立のは山すき尓し木つた日尓万た志久連遊久むら蟬のこ恵



B

森多富先生書

夕立の者山すき尓し木徒多比耳万た志久連ゆ具むら蟬のこ恵



下河辺長流（一六二七～一六八六諸説あり）江戸前期の国学者、歌人。木下長嘯子に私淑し、「万葉集」の書写・研究に努めた。伝統にとらわれない創意に富む解釈を示した。僧契沖とも親交があり、徳川光圀に依頼された「万葉集注釈」は、契沖に引き継がれた。

学び方

歌意は、夕立の後に山道を行くと、またしぐれが降ってきて、むら蟬の声が聞こえる。自然の変化を丁寧に描写した歌。

三行書。行の響き合い、呼応が感じられるよう、布置・墨色・遅速等を考慮しました。

これらの留意点は、作品制作の上では常に意識しています。しかしながら、結果「自然体で筆運びが出来たか？」を自問し、改めて鍛錬をと心している日々です。

予告　昇試第一部かな（九月二十二日締切）　**心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな（小倉百人一首　三条院）**

◆注意
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

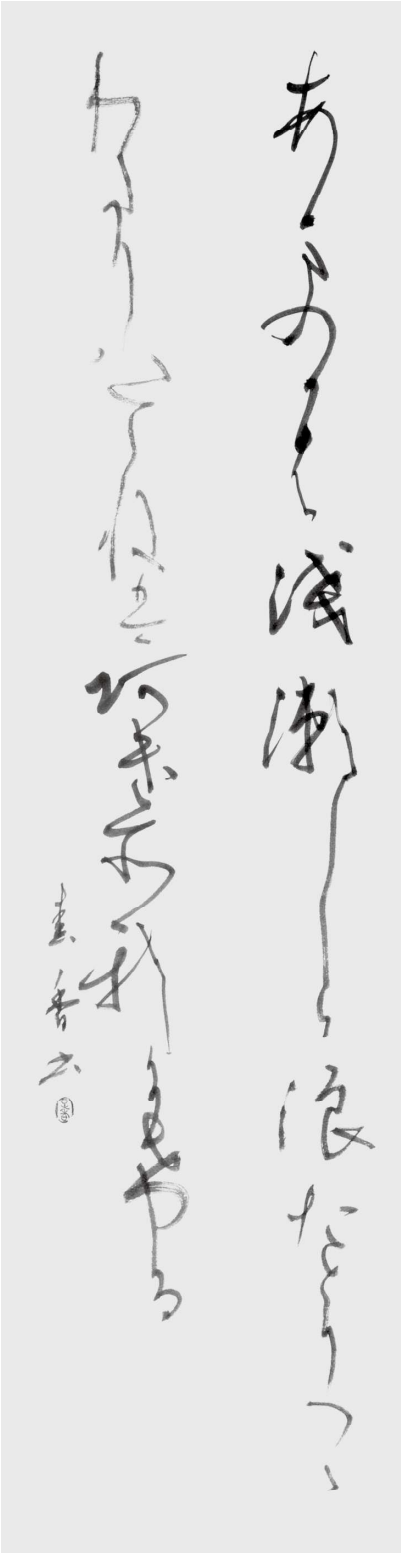
条　幅　部　随　意　参　考

小林崇華先生書

涼聲度竹風如雨　碎影搖窓月在松（文徴明）
涼声竹を渡り風雨の如く、砕影窓を揺して月松に在り。

訳…竹を吹きくる風は雨かとも思われて涼しく、松に懸る月は窓をてらし松影とともに砕け動くのである。

石原春香先生書



あまの河浅瀬しら浪たどりつゝわたりはてねばあけぞしにける（紀友則）
あ万の可者浅瀬しら浪たとりつゝわ多り八てね盤阿遣所新尓希る

歌意…天の川の浅瀬がわからないので、白波の立っている所をたどりたどり渡って、なかなか渡り切らないのに、もう夜が明けてしまったなあ。

◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

漢字部課題参考　（八月二十二日締切）

平岡華雪先生書

福は無為より生ず（「淮南子」）

訳…幸福とは欲望を持たない淡泊無為から生まれる。

〈画数が少ない右行〉

右行の「生於」は他三字に比べ画数が少なく、不釣合いになり易いので、線が単調にならぬよう配意を。「生」は小さくてもドッシリと、「於」は旁の分間に注意して調和を図る。

予告　昇試第三部漢字（九月二十二日締切）　白雲抱幽石（謝霊運詩）

平岡華雪先生書

雲の峰塵の都に立ちにけり（虚子）

久もの峰遅りの三や故二立ちに希り

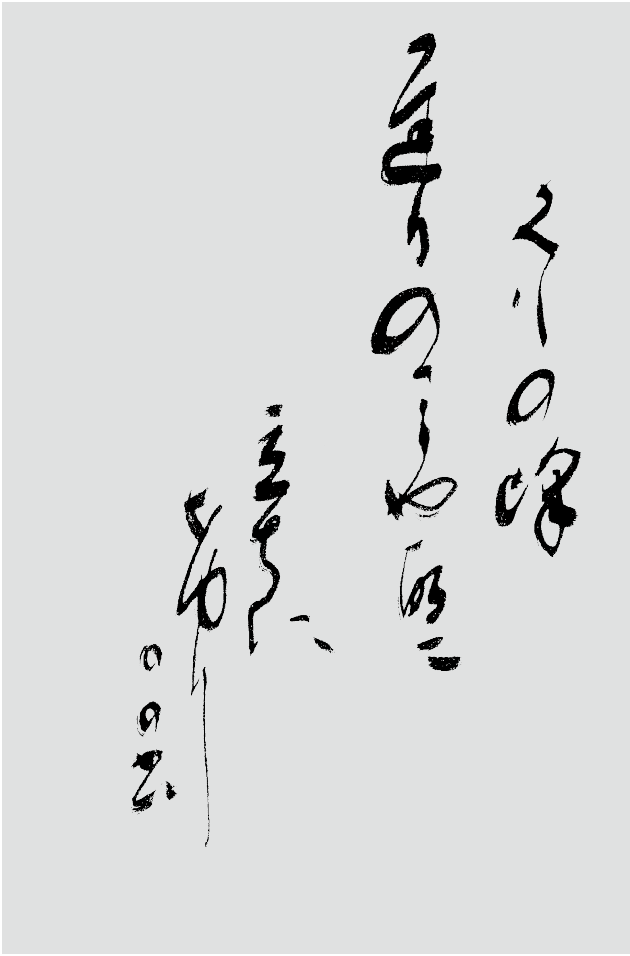
〈「故・希」の第一筆の用筆〉

この二文字は鋭くバネを利かして入り、その強さで筆毛が開き、末筆を右上空にはね上げ第二筆に入ります。「故」は鋭く細い線、「希」はズブリと筆を開いています。

希

かな部課題参考　（八月二十二日締切）

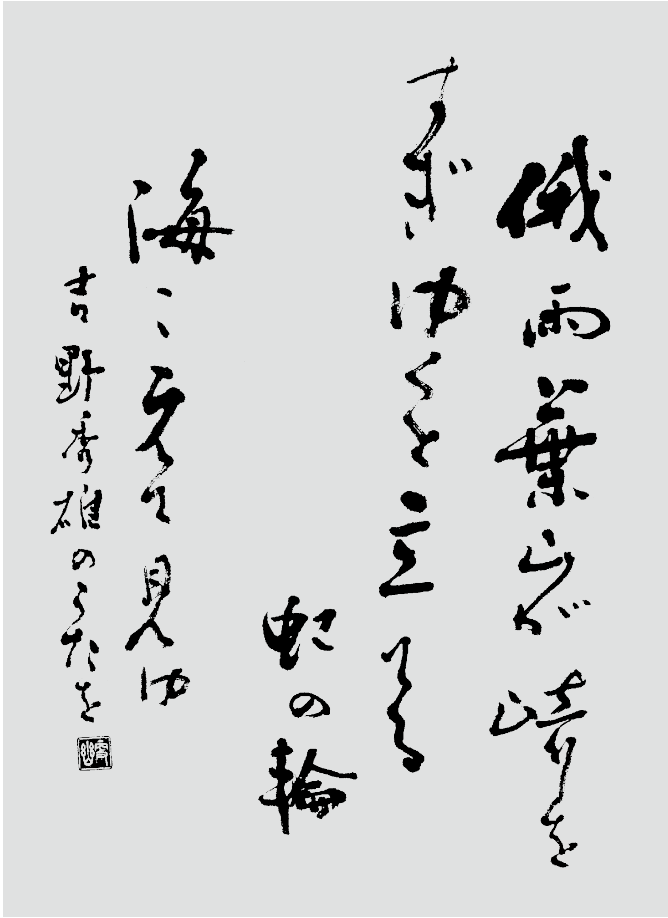
予告　昇試第三部かな（九月二十二日締切）　また山が遠くなりゆく花野かな（桜坡子）



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。
①出品部門（例：「漢字部」「かな部」）　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

漢字かな交じりの書課題参考（八月二十二日締切）

鈴木静村先生書



俄雨葉山が崎をすぎゆくと
立てる虹の輪海こえて見ゆ

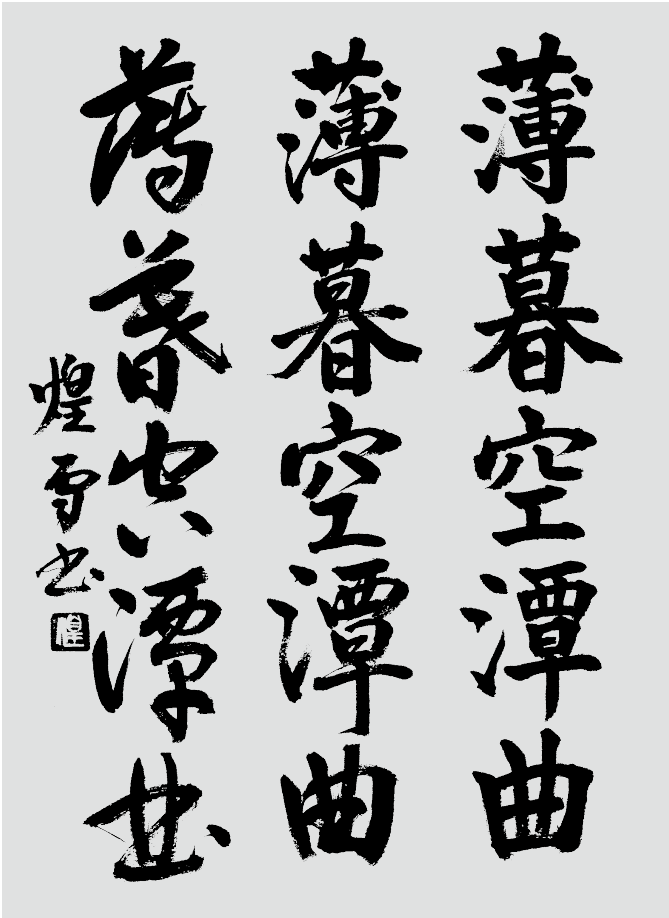
（吉野秀雄）

吉野秀雄（一九〇二～一九六七）歌人。群馬県の人。会津八一に学ぶ。二行目「**立**」で墨継ぎをした。今回の落款は作者名に「のうたを」と添え、そこに雅印を押してまとめた。なお、小雅印を所持されない方は、従来通り「〇〇書」にてどうぞ。

(1)出品料550円　(2)バーコード券余白に「**漢か**」と記入

楷、行、草、三体課題参考（八月二十二日締切）

星野煌雪先生書



薄暮空潭曲（王維）

薄暮（はくぼ）　空潭（くうたん）の曲（くま）

訳…夕ぐれ、人気（ひとけ）のない淵のほとりで、

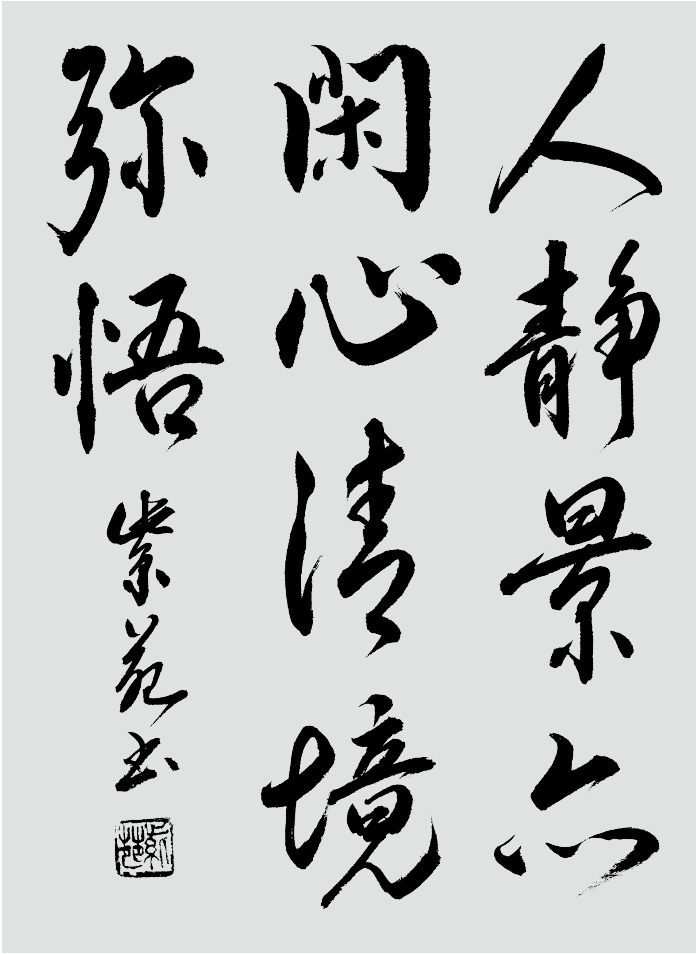
(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

予告　昇試第二部漢字（九月二十二日締切）　**安禪制毒龍（王維）**

随意部参考

山田紫苑先生書

人静景亦閑　心清境彌悟（嚴長明）
人静かに景亦閑に、心清く境弥よ悟る。



訳…人が静かであるから景色も亦自然に静かに、心が清いからその境遇もいよいよ悟られることになる。

随意部参考

本澤優香先生書

ひぐらしのなく山ざとの夕暮は風よりほかに訪ふ人もなし（読み人しらず）
日久らしの奈久山佐と農夕暮八　かせよ利本可二と布人毛那し

訳…「日暮らし」というわびしい名のあの「蜩（ひぐらし）」が鳴く、もの悲しさのつのるこの山里の夕暮は、秋風のほかには訪れる人もない。

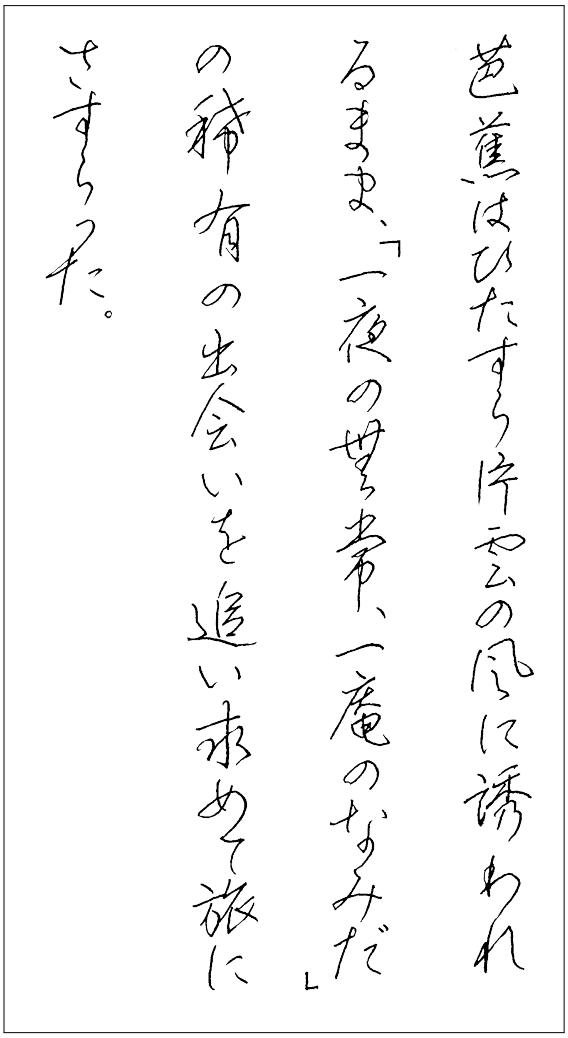
(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

予告　昇試第二部かな（九月二十二日締切）　野辺遠く影はさせども麓にはまだ見えやらぬ峰の上の月

硬筆部課題参考　（八月二十二日締切）

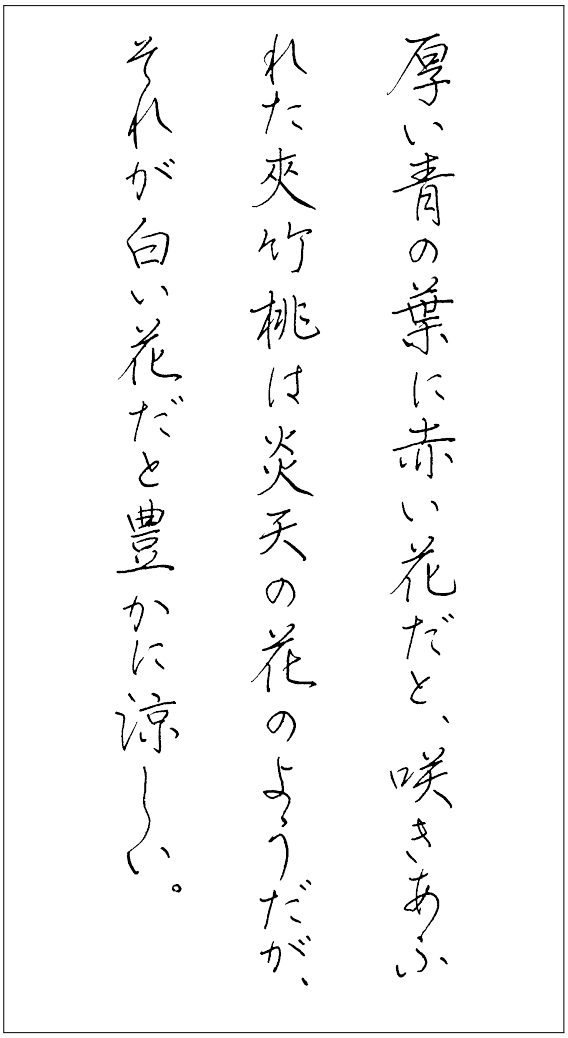
稲畑曄穂先生書

課題 1　（初段以上）



生駒紅泉先生書

課題 2　（初段格以下）



課題1（初段以上）

芭蕉はひたすら片雲の風に誘われるまま、「一夜の無常、一庵のなみだ」の稀有の出会いを追い求めて旅にさすらった。

（『片雲の風』　大岡　信）

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。

(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。

(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）

(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4 ㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新

(5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2（初段格以下）

厚い青の葉に赤い花だと、咲きあふれた夾竹桃は炎天の花のようだが、それが白い花だと豊かに涼しい。

（『千羽鶴』　川端康成）